

田島中校区 学校再編整備計画（案）説明会 質疑応答議事録

1 日 時 平成30年9月22日（土）午後3時～午後4時30分

2 場 所 田島中学校 LL教室

3 参加者 15名（大人10名、子ども5名）

4 出席者（事務局）

【教育委員会】川阪学事担当部長、川本教育政策課長、大川学校適正配置担当課長、樋口首席指導主事

【生野区】山口生野区長、深見生野区副区長、井平地域活性化担当課長、

5 質疑応答議事要旨

（質問者A）

田島4丁目に住んでいるものです。ご覧のとおり子どもが3人いますので、他人事じゃないと思います、今日来させていただいた。私は昨日チラシを見て、田島中学校で小中一貫校になる事を知って、そうなんだと思います、それまでは、田島小になるか生野南小になるか分からない状況から、いつ頃決まったのだろうと言う感じだったのだが、私も説明会に来たのが、今日が初めてですので、知らなかった部分はあると思うんですが、正直言って、戸惑いが大きいです。小学校と中学校が一緒になるのはどのような感じなのか。いちばんの疑問はどうなるのだろうと。再編は賛成なのですが、個人的には。ただ、どちらかを使ったら良いのではないかと田島小学校でも、私としては生野南を使っても良いのではないかと考えており、その方が、今の話を聞いたらメリットはあるのだろうけれども、もちろんデメリットもたくさんあると思うし、ややこしい事やトラブルもきっと起こると思うんです。何か素晴らしいことばかり聞きましたけれども。生野南ではダメかなと見たんですけど、距離が遠いのと中学校と連携するにあたって、田島小より距離が遠いからと言って生野南は無理なような感じで書いてあったと思うんですけども、

（質問者B）

距離が遠いと何であかんのですか。

（質問者A）

すいません。漠然として申し訳ないんですけど、もう小学校があるねんから、いちいち校舎を建てなくてもプールもいちいち作らなくても使ったらいいやんと、遠くなってもかまわないのでハッキリ言って、それがまず思います。

（井平地域活性化担当課長）

皆さん、色んなご意見があると思います。今いただいたように距離が遠くても全然問題ないという思いの保護者の方もおられると思いますが、逆にやはり距離が遠いと不安だと言う方もたくさんおられます。その中で教育委員会として、距離も短くて、あとこれからの教育的なところで言いますと、生野区の再編に関しましては、小中連携と言いますか、小中一貫教育というのを強く打ち出ささせていただいて、小中9年間を一貫した教育をすることで、子ども達にとって、これからの時代を生き抜いていく力を9年間でつけていこうと考えておまして、その事も含めて距離も併せて今回の案とさせていただいておりますので、色んな意見はあるという事はしっかりと受け止めながら、不安にされてます小中一貫

であります、どんな事が起こるのかなど実際のところにつきましては、これまで先行で行った小中一貫を行っている学校もございますので、そういったところで課題解決してきているところはしっかり対応をしながら、新たなところに対しては教育委員会・区役所が対応していきたいと考えております。

(樋口首席指導主事)

少し補足ですが、その前に今のを聞かれて何かございますか。

(質問者A)

実質ここにいらっしゃる教員の方と、校長先生たちが動かしていくことやと思うんですけど、その人たちも対応できるんですかと、ごちゃごちゃになった時に、この皆さんが助けてくれるのですかというか、手助けをしていただけるのかと言うのも思ったんですけども。

(質問者B)

何かあった時に責任をとるのは誰ですか。

(樋口首席指導主事)

学校は学校長です。

(質問者A)

その校長が、こういう事をきっちりわかっていて、うまく出来る方だったらいいですけども、そうじゃなかった場合に、こうしたらいいよとか、もっとこうしたらいいんじゃないかとか、サポートはしてくださるんですか。

(樋口首席指導主事)

もちろんです。私も校長をしておりましたので、会社であれば社長、学校であれば校長、区役所で言えば区長、が最後の責任をとるという立場です。

それは腹を決めてやるしかないんですけども、おっしゃられるように、校長が全部を把握して学校運営をしていなければ困るやないかと言うのはごもっともです。ですので、丁寧にどういう経緯でこの学校ができてと、いう点について、しっかりと伝えながら、この地域の実情をふまえて学校運営を進めていくということはしていかなければならないと思っていますし、何かあったときには、教育委員会は、当然、共に歩んでいく存在ですので、決して学校長が責任者だから学校長だけの責任であるということではなくて、どう対処すればいいのか、こじれた問題も昨今ありますので、そういったことがまずは起こらないように学校運営を行うことが大事ですし、そのためには、例えばですね、今回小中一貫校のご提案をさせていただいているのは、いくつかの小学校が集まって中学校になることがほとんどです。まあ1小1中のところもありますが、そうやっていくつかの小学校から集まってきたら、それぞれの学校の文化が違うので、その文化の違いであったり、よそ者とか、何か違いを受け止めるには、相当時間がかかりますので、どこの中学校も小学校から上がってきて、しばらくは権力闘争じゃないですけども、人間関係が構築されるまではちょっと時間がかかります。ところが小中一貫校を進めた学校は、子ども達は小学校の段階から中学校の先生もわかりますし、子どもどうしも既に同居しているわけですから、違いも何も早い段階から分かっています。

ただ、先ほどから良いことばかり言ってますけど、もちろんデメリットもございます。

例えば、先ほど言われましたように、中学校で何か問題が起きたら、当然小学生は見てますので、小学生が影響されやすい環境、これはもう同居してますので、それは当然そうなっています。また、小中が協働してと、言いましたけども、小学校の先生と中学校の先生が打合せをしない事には前に進みません。行事一つ計画するにしても、中々、今まで中学校はこうしていた、小学校はこうしていた、もっと言えば2つの小学校が合わさることも、始めはやはり戸惑いがある場合もありますし、そう言った意味では、それぞれの学校から来た先生もいらっしゃいますし、転勤して新たな風を入れていくといったこともしていきます。ですので、新たな学校が出来たときには、これまでこの学校はこうだったと言うことだけでね、それぞれが折り合いをつけられないということではなく、折り合いをつけていくという段階はとても大事なことだと思います。おっしゃられたように、デメリットも当然あるわけですけども、9年間を見通した、たとえば学力向上とか、そういう仲間作りとか、そう言った点で言えば、早い段階で一つの集団として生活することを活かしてでもやっていくと言うことが大事であります。極力そういうメリットは大変多い部分がありますので、そのメリットをどう膨らましていくのかという学校づくりを校長はじめ、それぞれの教職員の皆さんが、一致団結して作っていきこうとしていくような、教職員の雰囲気があるかどうかというの大きな事になっていきます。

そういう意味では一つ、新たな時代を迎えるに当たって、教職員の一致団結した意識改革というの、課題になってきます。それを超えて、子どもたちのためにということで、この環境をメリットと捉えてやっていくことが大事であると思いますので、私どももしっかりと支援していきたいと思っております。

(質問者A)

わかりました。ありがとうございます。小中一貫がうまくいっている例っていうのはあるんですかね。大阪市内で。

(樋口首席指導主事)

小中一貫校にしてよかった、というのがほとんどです。やらなかったら良かったと言う声は逆に聞いておりません。

一部、小中一貫校になったから、このようになったという声は全くないかといえば、無いことはないのですが、ただ学校全体として、これは間違いやっただやろ、と言うふうなところは一つもございません。

(質問者A)

わかりました。ありがとうございました。

(質問者C)

すみません。生野南小学校校下のものです。今、ご質問もありましたように、今日初めて田島中学校の方に小中一貫になること聞いたっておっしゃってましたけども、これまだ案で決まったわけではないので。

田島小学校の方へ生野南小が行くっていう案もまだ残ってるんですけども。

もうそろそろこれを早いこと決めていけへんかったら、話が進みにくいと思うんです。

もうね、最初僕もこの話を聞いたんが、平成24年ぐらいだと思うんですけども、こんな話があるっていうのをね。それから区役所で何回かこういうのを集まってもらってと、いうときはこんな状態じゃなくて、もっといっぱい、特に未就学児の保護者の方がたくさん

居てはったんですけども、どんどんどん何も決まらないままきたら、ズルズルいったらやっぱり、それぞれの人の興味っていうのが薄れて行って、あまり本当に来ていただきたい、これから学校へ来るお母さんお父さん方もなかなか、来なくなってるんで、もっとその辺は早いこと進めて行っていただいた方がいいと思います。

あと、私としてはやっぱり子どもの数がたくさんおった方がいいんで、統廃合には賛成なんですけども、うちの地域は生野南小学校でも一番南の端っこで、昔杭全ボールだったところのそばなんで、1回子どもを連れて田島小学校まで歩いたことがありますね。

距離が遠いのは問題ですかっていうご質問があったんですけども、実際は歩いたら40分から45分、小学生1年生の子と一緒に歩いたんですけども、手ぶらで歩いてそれだけかかります。

学校いく時はいろんなお子さんと一緒に行くからいいと思いますけれども、帰るときに、時間がやっぱりバラバラなんで、1年生の子どもが田島小学校から、そこまで帰るのに安全の確保ができないっていうので出てきた案が、中学校の方に生野南小学校も行くこと出来ませんかっていうふうになってきたっていう経緯があるっていうことだけ知っていただきたいと思います。

(井平地域活性化担当課長)

ご意見ありがとうございます。

今回学校整備計画案というものを行政の方で作らせていただいております。

この分につきましては、これまでの将来の学校を考える会ですとか、その他皆様のご意見等々参考にして、作らせていただいたものであって、現時点での今後の新しい学校をつくる上での案としておりますので、現段階で田島中学校に新しい小学校作っていくっていうことにまとめさせていただいております。

今後、学校設置協議会の方で最終的には決定全てを確認していただくことになるんですけども案としてはもう一つにまとめたもので進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。あと通学路に関しましても、やはり小学校1年生のお子様、なかなか時間がかかる不安なところもありますので、距離も含めてですね、通学路の安全というところを引き続きしっかりと検討していきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

(質問者D)

すいません。私も生野南小学校出身ということでね、今日来させていただきました。

こちらの方が言われたように、いつの間に中学校をセンターにした教育の方針に変わったのかなって部分も。署名だってもものすごく集まりましたし、区役所も300人から集まっていろんなね、やっぱり学校の話をいろいろ聞きに行きましたしね。

それがまた形変えてね、教育委員会だけでこんなことしていいのかなって。

なんか本当いっぱい良いこと書いてあるし、やっぱりそらデメリットもあると思いますよ。

少ない人数に対してね。

ただ4年後には200人増えているということも、統計的にも出てるわけやし、それ以外に学校人数少ない、少ないからこうするんじゃないかって、生野区が子どもがふえるような、そういうことをね、考えてるのかなって。

例えば中央区なんか本当に一つ高層マンション建っただけで、もう小学校足りないんですよ、入れないんですよ。

時には閉校にできてしまって、今度土地を確保できないぐらい人数増えてしまっているということもあるんでね、やっぱりそういうこともトータル的に生野区を考えて欲しいなっていうか、生野区が良くなっていくことを、やっぱり私達は近くに小学校があることがすごくありがたいんですよ。

やっぱり今回の震災のときにはね、やっぱり行くのに近い生野南小学校にいけるなと思ってるんですけど、それがなくなる。

いや、なくなれへんというけど、やっぱり行ってしまうと誰が管理すんねんとかまで絶対出てきますわ。

大概もうおざなりになってしまっただけで、しっかりしたものがないと思います。

だからそういう面でもね、やっぱり交通の方で交通網だってそうだし本当にバスもあれへんやないのって。

やっぱり学校あらへん、バスの便悪い、何であんな所に家買ってんってなと思うんですよ。

やっぱりこの前もチラシ来てたけど。小学校近いです。だからいいですよって感じでビラも入ってきてるわけです。確かにそうなんです。

小学校を核にね、私は地域で活性化していくと思うんですよ。

何かそういう方面のことを考えていただきたいなと、減る減る、減るから統合をすることばかり言って、私らから見たら、減って先生方も減らしてお金を浮かして、そのお金でどないすんねんって、思ってしまうんですよ。

だからそういったところもね、やっぱりきっちり説明していただきたいと思います。

どういうことを考えてるのかね。

(井平地域活性化担当課長)

どうも意見ありがとうございます。

今回のこの学校整備計画案につきましては、行政の責任として、もともとですね、子どもたちの教育環境の改善ということで取り組んでる中で案の方を作らせていただいております。

その中でいろんなご意見をお伺いして、現時点での案として作らせていただいたものですので、今回が初めてこういう形で一つにまとめたということですので、これから説明もしながら、学校設置協議会の中で、議論していただく形になろうかと思っております。

今後ですね、跡地の問題とかにつきましても、避難所ということで、全て残すっていうことでさせていただいております。

そんなこと言っても管理できんのかっていうことも今言われましたけれども、これは行政の責任としてやっていくっていうことで思っております。先ほどもちょっと説明させてい

ただきましたが、ただ単にその跡地として避難所ということで置いておくだけではなかなか管理も難しいところがございますので、それにつきましては、業者の方と連携してですね跡地どうやっていくのかって言うことで検討しております。

今年度には全体的な構想を示しながら、来年度には具体的なところも示していきたいと考えておりますので、その中で収入を埋めるような活用ができるのかとか、そういった形で持続的に跡地についても活用できるような形の検討を進めておりますので、先ほどもちょっとお伝えしましたけれども、今後、作っていきます跡地活用の検討会議の中で、地域の皆様からもご意見をいただきながら、そこについてはしっかりと対応していきたいと思っております。

あとバスのこととかもですね、BRTの検証実験とかも来年からちょっと始まるっていうようなことは聞いております。

そういった中で、今後どうか、どういった形で進んでいくのかっていうのは、まだ5年先ぐらいになると思いますので、そういったところと並行しながら教育環境の改善というのは進めていかないといけないと思っておりますので、そのあたりはご理解いただければと思います。

(山口生野区長)

まちづくりのところなんですけども、区長の私からご説明させていただきます。

まずそもそもですね、生野区がなぜこのように人数が減ってしまったのかっていうところから私も区長になりましてから他の周りの近隣区の増え方とか見ながらいろいろと分析もしデータも見ました。

最大の原因はやはり大きな土地が空かない。戦争で焼けていませんで、大きな土地が空かないために、高層マンションを建てるような余地がないんですね。

高層マンションで一つ建ったら600から700ぐらい増えます。

全学年例えばもう1クラスずつ増えるんじゃないかっていう予測になるのは、その校区の中に1,500の住宅が確保できたときにはちょっと再編様子見なあかんかなってなるんですけども、そういった大型の高層マンションが生野区内に建つというのは非常に可能性が少ないというのが今の現状です。

最近の傾向として、ちょっと大きな土地があって、ここどうなるのかなと思ってたら高齢者向けの施設、または単身者向けのワンルームマンションが割と多いです。ちょっとシャーマンみたいなものが建って、子育て世代が入っても4か5ぐらいのものしか建たないというのは、毎回ちょっとなんか残念やなど、思いながら見てるところです。

実際問題空き家率がですね、大阪市内でも3位かという状況、それも流通に乗らない長屋が多くてですね、長屋率は確か1位か2位だったと思うんですけども、4軒長屋の内、1件居てはったら、やっぱりなかなか簡単にそこを空けることができないという中で、今一生懸命空き家対策も来てから啓発も広報紙などを使ってしてるんですけども、戸建てに建て替わると非常にかわいらしい家族向けのいい戸建てが建って、そんなに高くもないし、ちょっと来て住んでいただけるっていうのが今の現状です。

ただ、1校区当たり、西側でいきますと、20から30建て替わったらいい方でちょっと打ち止め感があるなというのが、今年度入ってから建て替わりのペースが落ちてるなというのもちょっと見てはいるところなんです。

あともう一つですね、やはりこれもはっきり言いますが、まちのイメージというのが実のところあまりよくないというのがありまして、区民アンケートをとりますと、半数以上の方が区民なのに、街に魅力がありますかって生野区魅力ある街だと思いますか、と言うとちょっとネガティブで、「いいえ」とか「あまり思わない」みたいな答えが半数を超えてしまうんです。

そこで今取り組んでおりますのが、広報紙もちょっと新しくしたりして子育て世代向けのもうそんな昔みたいに治安が悪いわけでも何でもないし、交通の便だって、そんなにちょっと若い世代になると自転車乗って天王寺も行けますし、どっからでも10分15分で自転車乗ったらそこそこ駅にたどり着く平たんな街ですので、何とかもうちょっとそういうまちの魅力もどンドンアピールして住んでもらえたらなあというふうには思っています。

あといろいろ例えばですね、宅建協会でありますとかに聞きますと、とにかく住宅問題なんですほとんどの街の活性化というのは住宅が建つか建たないかにあります。

それでちょっと生野区内にもっとマンションとか建ててくれませんかね、みたいなお願いをしに行ったりとかもするんですけど、土地が空かない、売れる保証がないって言われて今の時点ではなかなか進まないというのが現状です。

そう言いますのも、この10年ぐらいの区民1人当たりの税収という税金の収入ですね。ずっと西成に次いでワースト2がもう10何年も続いている状況です。

いわゆる路線価と言われる土地の価格も例年ちょっと落ちてまして、だからこそ安くて良い戸建てが立ってどンドン建て変わってきてるところもあるんですけども。

生野区単体では実はかなり税収もしんどい中で人口、子どもの人口がピークから75%減って、そして学校も1校も減ってないという状況がずっと続いているのは現実なんですね。

何とかしてその浮いた分どうすんねんって、話ですけれども、浮いた分をとにかくまち作りと教育環境の整備に使って生野区を本当に、子育て世代に選ばれる街にしようということで、教育環境の整備、そして保育も含めての子育て環境の整備、そして街のイメージを変えるシティプロモーション、空き家対策、もう全て打てる手は全部打って、やはりまちづくりを進めたいと思っています。

ただ、いま今ずっと単学級である、減り続ける子ども達に対して無策でいるわけにいかないというのは、教育上の観点で思っているところで、そういった意味でも再編というのは、やらなければならないと思ってご説明をさせていただいているというのが今の状況です。

とにかく災害の続いた年ですのでいろいろご不安な点もあると思います。

防災上ちゃんと教職員がいなくても今回職員でこの間の台風のときは19の小学校、避難所として一旦開設をいたしました。大阪市から指示が出たものではないんですけども、区として判断して開けさせていただいたんですけども、そういったところの災害避難所としての整備というのはもう第一条件と思っていますので、学校跡地はしっかり管理していきますし、ただただ管理するのではなく、まちにとってプラスになる、何かができるように今いろいろと取り組んでいるところです。

私からの説明は以上です。

(質問者D)

一生懸命がんばっていただいていると思うんですけど、本当に高層でなくても。

7階建てのところ、また単身者向けが建てられるとか、なぜ家族が住めるというような物にしないのか。

大きなタワーマンションだけが問題ではなくて、4階5階ぐらいのが少し。

そういうところをなんとかしてもらいたいです。

(質問者E)

生野南地域に住んでいる者です。よろしくお願いします。

私の子どもはもしかしたら間に合わないかもしれないですけど、こういう学校に行かせたらきっといいだろうなっていう思いもあります。ただ、各校の予定人数、今の人数のところ見たときに、先ほど1年生と2年生35人、3年生から40人っていうふうにおっしゃったんですが、この1クラスの人数はすごく多過ぎるんじゃないかってまず思っていて、たまたま私の子どもは今小学校と中学校なんですけど、全部30人以下できてます。

だいたい25人とかで。やっぱり30人超えるとすごく多いなって。参観日なんか行ったときに思います。

で、やっぱり先ほど言った、その子どものことを考えてくださったり、あと先生の負担を減らすってところから考えるんだったら、それを今後もそうですけど、今もやっぱりここ見ると今の現状も40人、5年生43人って、これでどんなふう運営してはるのかなって思うとすごい大変なんじゃないかなと思うんです。

この先生も考えると単学級で、しかも43人というのはすごく負担。

(樋口首席指導主事)

40人超えると2学級です。

(質問者E)

あ、そうなんです。

やっぱりその1クラスの人数をこれ統合しても変わらないですね。

それってすごくどうなのか。現場の先生たちの意見とかを実際にお聞きになってるのかとか、保護者として見て、もうちょっと少なくともいいんじゃないかとか、やっぱり5人かわるだけで全然違うと思うんです。

まあ、その点はどういうふうに関心してきてきたのかどうか、お考えとか聞かせていただけたらなと思います。

(樋口首席指導主事)

ありがとうございます。

この少ない、20人ぐらいの学級だったら教員もやりやすくて、多忙感といったものも緩和されるのではないかと、ということなんですけれども、おっしゃるとおりだなあというふうに思います。

それが出来たらいいんですけども、一定これルールがありまして、これはもう全国的にそういうルールになっているというルールです。

それは40人で、40人以下が1学級、ただ41人になったら2学級というふうな基本的なルールがございます。

ただ1年生は35人を超えると2学級。大阪市は特別にどうか、大阪市では35人を超えたら2学級というのが2年生までございます。

ですので、確かに今回合わせたときに、例えば2学級になってもそれぞれの学級の児童数っていうのはさして変わらないじゃないか、これもごもつともです。

その通りなんですけども、今回話をさせていただいてますのは、どの学校もほぼ、今現状においても、単学級1学級のままでいってしまう。しかし、この先見たら、最短で、平成33年度、次なる学校ができるということで、小学校は2学級規模になっていくということなんです。

これは単学級が解消されることで、何か人間関係でつまづいたときには、クラス替えも一つの選択肢となり選択の幅が広がっていくということでもあります。

先ほど教員の意見を聞いたのか、ということなんですけど、個々に細かく尋ねたわけではありません。

これは大阪市の教員をやっている以上、どの学校行っても、転勤はついてくるんですけど、どの学校行っても与えられた環境でやっていくっていうのは、私達望んでこの職に就いてるものの条件となっていくと思います。

学級編制については、現状においてこれを全国規模で決まっている一つの線がありまして、これはもう何ともしようがありません。

ただ2学級になることでメリットはありますので、例えば先ほど区長も申しあげましたけれども、それぞれ横の先生と相談しながら学年の経営ができるということは大きなことです。

私が教員になったときは3学級ありましたので、例えば教室掲示一つにしてもね、どないどのようにしようかと話しあうことができました。しかし今は、学校に勤めて10年以下の先生が半分を超え、しかも学級は一つという状況です。

ですので、今回の提案はそういう若い先生にとっても大変メリットになってくることですので、それは最終的に子どもたちにも返っていくものと思っております。そういう観点から選択をさせていただいているところです。

(質問者E)

こうするのはすごく賛成です。1クラスしか今まで自分の子どもも経験してないので。

なので、国で決まってるのでしたら仕方のないこと、それが変えられたら、生野区発信で変えていただけたら、なんか府の状況とか、市の状況によってそれぞれ子どもって違うと思うので、それぞれを任せていただけたら一番いいんじゃないかなって思うんですけど、やっぱり60人と70人を2つに分けるのは人数が全然違うと思うし、こういうすごく素敵な教育をやっていく中で、やっぱり1学年がたくさんのギュウギュウ詰めよりも、ある程度ちょっと余裕をもった人数の方が絶対いいと思うし、その方がやっぱりいいと思うし、これからのお母さんたちとか保護者の方も、より賛成の方も増えるんじゃないかなと私は思うので。

(川本教育政策課長)

ちょっと補足しますけど先ほども樋口の方から説明したフリップの中に統合に当たって、やはり生徒理解を継続してやるために両小学校から同じ数だけ行くような形を想定してますので、一定の教員加配をちょっとしていかなければならないんです。これまた大阪市独

自の政策なので、予算をとってやっていく形になるんですけど、そのときに学校によっては非常に80人キツキツな場合とか3学級展開するとか、それにも至らない、だいたいもう60人切るような場合やったら習熟度別に使うとか、そういう使い方をできるような加配をちょっと考えてますので、ちょっとそこを制度化ということで未来永劫そういう形にするっていうことは国との関係でなかなか難しいんです。

統合に当たって、そういう配慮はしていきたいというふうに思ってます。

(質問者E)

支援がいる子もやっぱりふえてきてると思うので、やっぱりそういうのも含めた、学校教育も考えてとっていただけたらなって思います。

よろしくをお願いします。ありがとうございます。

(質問者B)

通学路の安全対策、ここの学校を出て北に行く道ご存知ですか。通学時間、どの時間でもそうですけど、車すごいスピード出してます。そういうのはどうやって対策するのですか。

(大川学校適正配置担当課長)

ありがとうございます。

ちょっと今日説明は主だったところを説明させていただいたんですけどもこちらの学校整備計画案を今日お配りしてますので、その22ページ、後ろから1枚めくっていただいたところに通学路の案と安全対策の今検討しているところを書かしていただけてますので、この中学校を出て、最初に北西に向いていく道のことをおっしゃられてると思います。

こちらの方は我々も確認はしてまして、車、確かに交通量も多いです。

こちらの方は今検討してますのはグリーンライン舗装、外側線がありますけれども、その横にグリーンラインを入れて…。

(質問者B)

それをして絶対に防げますか。路上駐車してますよ。グリーンラインも、くそも、ないと思うんです。

(大川学校適正配置担当課長)

はい。まず今できる対策としてはグリーンラインを検討してまして、あとは実際地元での啓発ですとかそういったことはやっていかないといけないと思ってるんですけども、あと路上駐車の関係とかも今後警察ですとかあとグリーンライン以外に何か措置がとれるかどうか。

こちらにつきましては大阪市の建設局になるんですけどもそちらの方と相談しながら、また具体的に学校設置協議会が設置されましたら、その中できっちりと安全対策について、今の案がここに書かしていただけてますけども、これ以外にも何か取れるか取れないのか、と言うのをご議論させていただきたいと思ってます。

(質問者B)

取れないと思いますよ。グリーンラインが引いたところで守るのか。あれだけスピード出している車がいっぱいおって。警察が5メートル間隔で立ってたらそれは守るよ。

生野南小学校と一緒にするのはあかんの。

集団登校で車が突っ込むとかあるかもしれない。可能性すごい高いと思うで、そこは。

(大川学校適正配置担当課長)

今こちらの道を通学路の案としてこれは学校とも相談をさせていただいて作らせていただいています。今のような意見、他の道もたくさんあると思います。

その辺きっちりご議論、ご意見を伺いながら、できる限りの対策をとっていきたいと思います。

(質問者A)

車だけじゃなくてね、住んでいる方に失礼なんですけど、この前の台風で大丈夫みたいな、地震きたら倒れそうな家もあの道に、正直多いんですよ。

前、小学校ありましたよね、ブロック塀が倒れてっていう。ブロック塀はわかりませんが、そういう家は対策してほしいなと思います。

(大川学校適正配置担当課長)

ありがとうございます。

その辺も含めて、すみませんちょっと私がずっとこの道歩いてみたのはもうこの道路の状態ですんで、そういった今いただいたようなご意見もきっちりお伺いしながら対策を取れることを取っていきたいと思います。

(質問者B)

もうちょっと具体的に言ってほしいですね。やっていきます、対策します、グリーンラインを引きます。それだけ。もっとホンマに考えてほしいんですわ。中学生ならまだしも、小学生ですよ。帰り際に車が通っているとか考えたら、遊びながら帰る子もいますよ。

ほんまに危ないですよ。

(質問者A)

子どもが轢かれる事件があったんですよ。土日で。バイクに。その子どもも悪かったと思うんですけど、あの道スピード出してるなど。

(質問者B)

グリーンラインじゃなくて、時間で規制して、歩行者専用道路にしたらどうですか。それぐらいせんと、ホンマに危ないと思いますよ。

(質問者A)

通り抜けになっているみたいですよ。あそこらは。地元の方だけじゃないみたいやけど。

(大川学校適正配置担当課長)

今、いただいたような例えば時間帯の規制ですとかそういったことも今即答できません。申し訳ありませんけれども、その辺も例えば警察なりますので、そういったところきっちりできる対策…。

(質問者B)

グリーンラインよりそれを第1の目標として進めていってほしいですけど、どうですかそれは。

(大川学校適正配置担当課長)

すいません、警察とも相談させていただきますけれども、

(質問者B)

目標に変えてもらえませんかという、グリーンラインじゃなくて。それに対しての答えをお願いします。

(大川学校適正配置担当課長)

ちょっと今即答は目標を変えるというのはちょっと今即答できません。

それは申し訳ございません。

一応行政の案として今出させていただいている部分はこれで。

ただしっかりと安全対策できることというのは調整していきたいと思いますので。

(質問者B)

調整していきたいと思うだけですか。していくんじゃないんですか。

(大川学校適正配置担当課長)

調整をします。

ただ、可能かどうかというのは今なんとも申し上げられませんので、調整は必ず行います。

(質問者B)

はい

(質問者F)

すいません、こんにちは。生野南校下で子ども3人、中学校と小学校2人を育てているんですけども、ちょっと今ずっと話聞かせていただけて、すごく悶々とするというか、もういいことばかりおっしゃっているんですけど、はっきり言ってデメリットが全然今出てこないで、区長さんも、小学校小さい規模で学校やられていて、デメリットもあればメリットもありますっていうお話いただいたんですけども、友達をたくさん作ってあげたかったとかそういうことも良い意見をおっしゃってたんですけども、うちの息子はたくさんの中にいるのが苦手な子なんです。

はっきり言ってすごいグローバル化、多様化、いろんなすごく良いことが書いてらっしゃると思うんですけど、やっぱりその中から振るい落ちてしまう子もたくさんいるんです。

現実、私の上の2人の息子は支援学級に通ってて、今すごく手厚く生野南小学校で支援学級の方をしていただいています。

でもそれがこうやって多様化、たくさんの子どもが来ることによってそれが手薄にならないのかとか、そういった面にもすごく不安になります。

新たな学校の開校時期っていう最短スケジュールっていうのが日にち書いてあるんですけども。

4月の開校のためには11月末までに開校の時期の確定が必要っていうこと書いてたんですけど、誰がこれを望んでるんですか。

はっきり言って、私達は良いことばかり聞かされてね、これが必要やから11月までに答えを出さないといけないと焦らされているように感じるんです。

嫌と言ってる人もいれば、良いつて言う人と、それは100%になることは絶対はないと思ってますし、小学校中学校が小学校合併することに反対ではないんですけども、なんか良い事ばかり言われて。

さあ作ってみて、現実「あら？」て、言う学校もたくさんあったと思います。でも今もデメリットもあんまりないって、言いはるんですけど。

デメリットをもっと言ってほしいです。

でも、それを聞いて私達も納得してこういうデメリットもあるんだ。

でもやっぱりメリットの方がこういうのもあるんだなって、いろんなことを考えてやりたいのに、メリットメリットばかり言われて、子どもたちのためというよりもどっちかと言うと、区役所の言い分しか聞こえてこないです。

なんかそれでこの11月までに必要って書かれると、「はあっ」て、思ってしまうのが私自身はそう思います。

いろんな土台を並べて、これを日にちを書くんじゃないって、こういうこと、学校時期、やるならば、こうこうこう言ったスケジュールが必要でっていうのはわかるんですけど、なんかこの11月までに開校時期の確定が必要ということが凄く引かかってしまって。

それがなくて、みんなが決めて、これは初めて決まることじゃないかと思うんですけど、区長さんはどう思われてるんでしょうか。

(山口生野区長)

ありがとうございます。

スケジュールを示したのは結局賛成の方もいれば反対の方もいる中で、もう何年も本当に進まないっていうことに対するご意見もあります。

そういった中で、準備、何とかこういう手だて、こういうことを手順を踏んでいかないと行政というのは物事が決まらない面がありまして、議会を通すでありますとか教育委員会議にかけるであるとかそういったところでスケジュールをお知らせしていなかったのも、結果的に延びましたっていうことにならないように、お示しだけはさせていただいてるという形です。

だから反対の方から見られると、そういう受けとめられる形なので、こちらの書き方とか悪かったかなと思いつつお伺いしておりました。けれども一応そういうスケジュールとしては、もうここが決まらないと、やっぱりどうしても延びるということが確実になるということだけはちゃんと公表しておかなければいけないと思って書かせていただいたことです。

あとデメリットに関して、ちょっと思いつく限りを今から。

隠してるつもりは全くなくって、QAを今インターネット上にも全部出して、今回はお配りはしてないんですが、全部今まで出しています。大概質問というのは心配なことをいただきますので。

デメリットに当たる部分に対する一定のお答えというのを示してきました。

また私、大規模校の校長先生たちとも仲もいいですし、中規模校いわゆる適正規模、そして小規模とあります。

まず、ひとクラスの人数が多くなることは確かによくうちの教員が言っていたのが、一度12人のクラスと、例えば12人が出て28人が入ってきたときがあつて、28人も少ないんですけども目が慣れてないもんですから今年多いなみたいなことになったんですね。

その差が倍ですよ、言ったら。人数が増えましたってなったときに、通知表つけるのと懇談と宿題の採点とやっぱり家庭訪問はひとクラスの人数多いと「あれやなあ」みたいなこととかは言っていたんですが、やっぱり班活動というのが割と小学校でやりますので、班の組換えがいっぱいできて良いわってというようなことは言っていました。

デメリットとしてはやっぱり多くなることによる、特に特別支援の子でありますとか、はっきり特別支援の学級に入ってなきゃいろんな課題を抱えている子を見落とすんじゃないかというところの懸念は十分あると思います。

それに対してどんな対策を大きい学校とか、人数が多い教室がしてるかということ、特別支援サポーターというようなサポート制度でありましたり、区の方も発達障害サポーターという人員措置をしてるんですけども、そういった人が出来るだけきめ細かく担任だけじゃなくて、見れるようにしてしまったり、あとは先ほども、特に算数と国語に一番学力差であるとかちょっと理解がちょっとここを取りこぼされないようにって、いうところの配慮が必要なので、そういった場合は、この単元は3クラスに割ってやるよとか、ちょっとしんどい子10人ぐらいのグループで、ちょっとしっかり、この真ん中ぐらいの、そしてちょっと進んでる子みたいな感じで分けたりとかそういったチーム学校という考え方が大分出てきてますので、そういったところは配慮をしっかりしていきたいと思ってます。

あと人数が多くなる。あとちょっと再編っていうのはやっぱり環境が変わりますので、そこで不安に思うとか、新しい人間関係が苦手な子、もちろんいます。

そういったところには、元の学校の先生がちゃんとこう来て情報交換しながら寄り添っていく部分と保護者の方もしっかり連携していく部分、あとスクールカウンセラーが今、学校巡回するような形で入ってるんですけども、そこをしっかりと配置したいと思ってますし、その予定で予算も実際決まったらちゃんと詰めることになります。

特別支援と言うより、やっぱり今の学校って校長やりながら思ってたんですけども、個別支援というか、個々に支援するという視点はすごい大事です。

それは、発達障害であるとかないとかってということよりも、家庭の事情を抱えている子もいれば、特にうちはちょっと外国の方が、ぼんと日本語わからないまま転入してくる子どもいたので、個別に持ってる課題を、その担任1人で抱え込むんじゃないかって、いろんな人を見て、そういう意味では隣にクラスがあると、体育一緒にやったりする中で、また目もあるんですけども、いろんな人を見てこういう支援が必要とかこんな声掛けがいるとか、この子はこの先生に慣れてるからこの先生にちょっとしっかり声掛けしてもらおうとい

うようなことを。本当に新しい学校をつくるっていうことは、教員同士の事前の情報交換と交流もとても大事だと思ってます。

デメリットになるかもしれないという事としては、小と中の先生たちの意識とか、文化の違いっていうのはあると思います。

これを乗り越えていくための事前からの情報交流とか、こう一緒に何か活動するっていう交流活動は絶対にいると思ってます。

あと、例えばすごい多いところだと、もう運動場でボール遊びできないとかありますが、そんなことにはならないので、適正規模3クラスかなっていうのは教職員とよく喋ってって転勤していく先生がね、5月ぐらいにちょっと歓送迎会やるんです。学校忙しいんで。

5月ぐらいに行った先生で、大規模校に行ったとか、3クラスぐらいある学校に行った先生とか、今年では校務分掌が少ないのはラッキーっていうんですね。校務分掌というのは学校の教員というのは、自分たちの担任業務だけじゃなくって、例えば机椅子の管理とか音楽室の管理とか、いろんな役割を持ってるんです。それを校務分掌と呼んでるんですけども。

1人にもう四つも五つも被せなあかんのが、小規模校でどうしてもそういう研修とか会議とかもいっぱい出なあかんので、ちょっと申し訳ないなとずっと思ってたんですけども、そういった点で教員のある程度、業務軽減には繋がる面もあります。

そうですね。子どもたちはそうですね、日本橋小中一貫校に行ってきたんですけども、再編してどうですかって言ったら、「子どもが一番大人です」って面白いことを言ってたんですけど、教員がやっぱり中々ちょっとまだ馴染めない中で、子どもはすぐ馴染んでますと、仲良くなってますと。

ただ、一つだけちょっと気になるのが、人数が特別少なかった小学校があるんですね。

10人切るぐらいの学校やったんですけども、その子たちは今まで何も言わなくても、言ったら先生が気づいて先回りして、やってくれてたようなところがあるので、積極的に出れないっていうかね、指示をずっと待ってるようなところがあるので、そこがちょっと心配なんで後押しをしていますっていうようなことがありました。

今私が思いつく限り、お話もさせてもらったんですけども。

そうですね。他に何かありますか。

(樋口首席指導主事)

すいません、デメリットということではいいですと先ほど9年間で4年、3年2年で区切るというふうに言いましたが、これはこれまでも設置してきた小中一貫校で小学校と中学校が分かれていることによって、通常6年生というのは非常にリーダー性が育つといますか育てないといけない。

そういう環境にあるんですけども、小中が同居していることによって、小学校6年生という上がいないという状況じゃなくなる。上の学年がいるという状況なので、高学年のリーダー性が育ちにくいという指摘があります。

そういった意味でも先ほど4-3-2の区切りという話をさせていただきました。

それと田島中学校区においては、ちょっと申しますけれども、校舎を中に一つ作るということですね。

このことによって、最短で33年4月開校までは一定の工事をしないといけないが入ってきます。

ですので、現在の子どもたちにとっては、工事が行われ、これも極力、普段の教育活動に支障が出ないようにとは業者に言いますが、安全確保のためにフェンスを張ると活動するエリアが相当狭められますので、学校が建つまでの期間、どういうふうにしていくのか、これはしっかり考えていかないといけないことです。また校舎が建った後も、今現在、田島中学校の部活動は大変活発に行われていまして、それぞれのクラブが同じように行っていくためには、第二運動場も含めて、上手に使っていく必要が出てくる。このあたりがデメリットといえばデメリットなのかなど。そこらあたりをどうしていくのかということです。

あとは特別支援学級のことにつきましては、児童数に見合った教員も、これも一つのルールのもとで教員が配置されますので、先ほど、述べたように、これまでの先生も関わっていただき、なおかつ、それに加えて加配も考えておりますので、そういった全体像の中で、校長がどういうふうな学校運営していくのか、よりマイノリティーの子どもたちにも寄り添い、子どもたちがしんどくなるということのを避けていきたいというふうに考えております。

(質問者F)

ありがとうございました。

(山口生野区長)

本日はご意見ありがとうございました。

ご懸念もいろいろあると思うんですけど、また出前講座の案内も後でまたありますけれども小規模少人数でね、もうちょっとこう、他の友達でありますとか、ちっちゃい子どもがいるお母さんにお話してほしいでありますとか、そういった場合の地域の方でまだまだ伝わってない方もいるのでというような集まりに出かけていきますのでまた声掛けいただければと思います。

お子さんもいる中で来ていただいて本当にありがとうございました。

ありがとうございます。